

1 安全へ「選択と集中」。レッドゾーン戦略「第1弾！」

そうぜん
崇善小学校前交差点の交通事故対策工事が完了しました。

国道1号 平塚市崇善そうぜん小学校前交差点の交通事故対策工事が完了のお知らせ。

記者発表資料

国土交通省横浜国道事務所では、今年度より死傷事故率の高い箇所の対策を集中的に行う「レッドゾーン戦略」に取り組んでいますが、このたび、この戦略に基づく国道1号崇善そうぜん小学校前交差点（平塚市明石町）の対策工事を8月25日に完了しました。

崇善そうぜん小学校前交差点では、右折事故と出会い頭事故、左折時の自転車事故が多いという分析結果及び利用者へのアンケート調査、並びに地元自治会、小中学校、警察などと協力して行った交通安全総点検（主催：平塚市）の結果から、次の対策を実施しました。（別紙参照）

- ・右折事故対策：走行ラインをわかりやすくするために右折指導線を改良
- ・左折事故対策：見通しを良くしドライバーに注意を促すために植え込みの撤去、見通しの良い防護柵に交換、自転車注意の看板を設置
- ・出会い頭事故対策：左右の見通しを良くし車のスピードを落とすために停止線位置を前に移動

工事完了に伴い、地元平塚市長らとともに合同の現地点検を9月7日11時（雨天延期）より現地にて行います。

交通安全総点検にて指摘のあった歩道橋から崇善そうぜん小学校方向への歩道上の点字ブロックの移設につきまして、平塚市の施工により完了しましたのであわせてお知らせします。

平成19年9月5日

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
神奈川県政記者クラブ 平塚記者クラブ

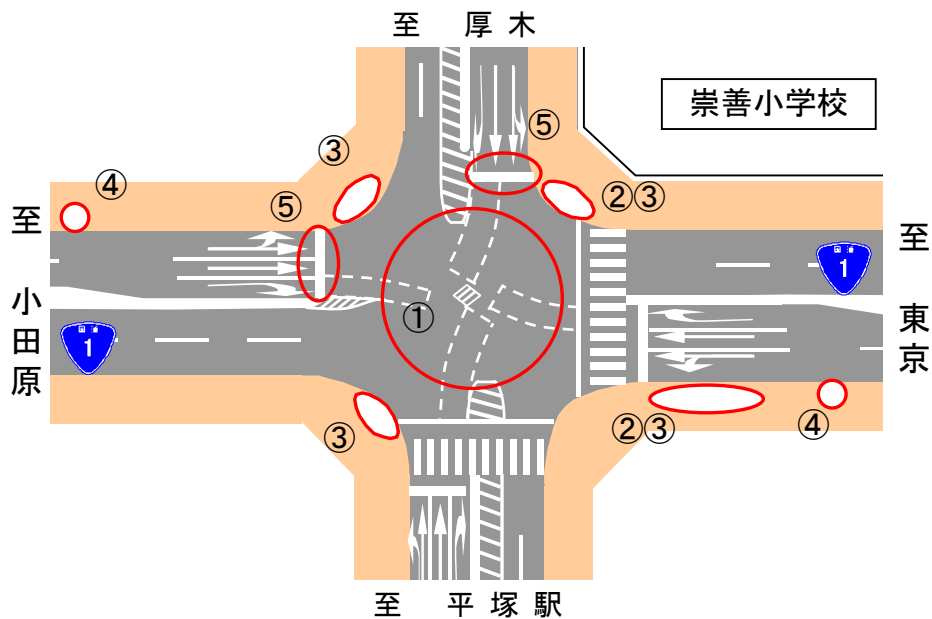
問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所
計 画 課 長 土肥 学（内線 301）
交通対策課長 星野 豊（内線 471）
電話 045-311-2981（代表）

平塚市^{そうぜん}崇善小学校前交差点の交通事故対策の概要①



崇善小学校前交差点案内図（神奈川県平塚市明石町）



崇善小学校交差点 対策箇所略図

- ① 右折指導線の改良
- ② 植え込みの撤去
- ③ 防護柵を見通しの良いガードパイプに交換
- ④ 自転車注意の看板を設置
- ⑤ 停止線の位置を前に移動

平塚市^{そうぜん}崇善小学校前交差点の交通事故対策の概要②

◆右折事故対策：走行ラインをわかりやすくする対策

①右折指導線の改良



◆左折・出会い頭事故対策：見通しを良くしドライバーに注意を促す対策

②植え込みの撤去

③防護柵を見通しの良いガードパイプに交換



⑤停止線の位置を前に移動



道路行政は選択と集中へ レッドゾーン戦略 — 「必要な道路」に重点投資

「交通戦争」の頃のような危険な状態にある道路(レッドゾーン)が残っています。

- S45年の交通事故死者数は1万7千人で、「交通戦争」という言葉が使われました。
- その頃、車が1億km走る間に平均で300件の事故が発生していたこととなります。
- 現在は100件まで下がってきましたが、今でも欧米と比較すると高い状況です。
- 交通戦争の頃のように300件を超える区間(レッドゾーン)が全国の国道と都道府県道(18万km、93万区間)に、まだ約5%存在します。

レッドゾーン・イエローゾーン以外の区間では、原則として事故対策事業を実施しません。

- わずか5%の区間のレッドゾーンに、死傷事故の25%が集中しています。
- また、100件を超える区間(イエローゾーン)も含めた19%の区間に死傷事故の67%が集中しています。
- 神奈川県には、レッドゾーンが約2000箇所、イエローゾーンが約5000箇所存在します。

レッドゾーンに集中して対策を実施します。

- 関東地整で、平成19年度に交通事故対策の事業を行うのは226箇所。予算(交通事故重点対策事業費)の総額は約156億円です。
- 226箇所中、99%の箇所が、レッドゾーン・イエローゾーンの区間に該当し、ここに予算の98%を投入します。
- 特に、レッドゾーンの区間に、箇所の67%が該当し、予算の65%を充てることにしています。

車が1億キロ走行して発生する平均事故件数 (件/億台キロ)

全国(国道・都道府県道)の死傷事故率の状況

